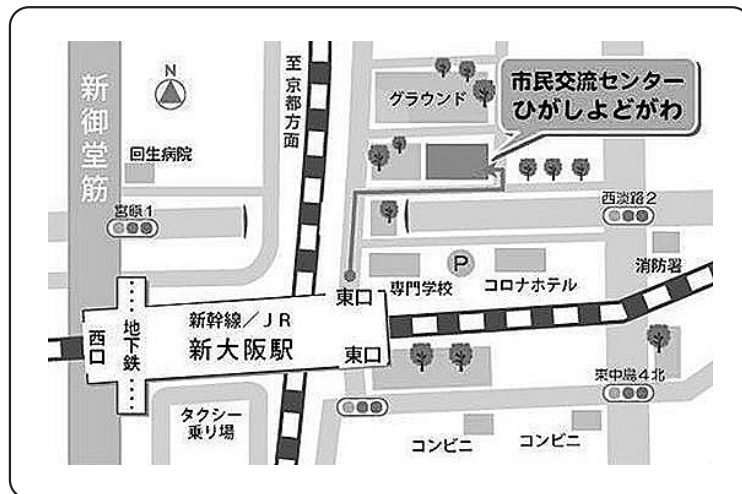


# 働く者のセミナーに 参加しよう！

報告を聞き  
討論し  
理解と闘いの確信を深めよう！

☆参加費(会場費カンパ) 300円

会場＝大阪市民交流センターひがしよどがわ  
(JR新大阪駅下車5分)



連絡先 関西実行委または全国社研社  
関西実行委 050-7109-2528 (平岡)  
全国社研社 〒179-0074 東京都練馬区春日町1-11-12-409  
電話 03-6795-2822  
E-Mail address = webmaster@mcg-j.org

2015年11月 第7回

# 働く者のセミナー にご参加を！

《テーマ》

## 「商品」とは何か

——商品の“価値”と  
社会主義の分配法則

チューター 林 紘義

- 日時 11月1日(日)午後1時半～9時
- 場所 大阪市民交流センターひがしよどがわ
- 主催 働く者のセミナー関西実行委員会

# 労働価値説擁護のために！

## 市場経済(商品経済)の本質と限界に迫る

今回のチューターの林紘義氏は報告について、主として二つの大きな問題意識を持っていると言います。

「その一つは、何と言っても『商品』の矛盾の根底を暴露する、商品の『物神的』(呪術的)性格についてと、またもう一つは、商品価値の研究は、最終的には、社会主義における分配法則——もちろん消費手段の、です——の解明につながらなくてはならない」というものです。

### 商品の価格(交換価値)とは何か

商品は一見したところ、自明的な、平凡な物に見えますが、その分析を始めると極めて不可思議な様相を呈します。商品経済では人と人の関係がものとの(商品と商品)との関係として現れますが、そうなるとものが(商品が、貨幣が、資本が)人間に対立し支配するようになり、謎的な状況を呈します。マルクスは、その不可思議さは、商品が価値形態をとることから生まれる、机が使用価値という側面から見ても何の不思議もないのに、商品という形態をとると頭で踊り出すような摩訶不思議なものとして現れると述べています。

これは商品の「物神性」の問題ですが、人間の労働が直接に社会的なものとして現れるのではなく交換価値という形態をとるのはなぜか、或いは人間の社会関係がものとの(商品と商品)との関係として現れることをどう評価し理解するかと言うことです。

人間関係がものの形態を取ると言うことは、いつの時代でもそうだということではなく、商品生産特有のことです。マルクスの「商品論」は、商品生産社会の歴史的な位置、その進歩的な意義とともにその矛盾と限界をも明らかにしています。進歩的な意義とは、商品生産と交換価値の発展は、人間の生産的労働が、「価値対象性」の形という限界の中であれ、抽象的な人間労働として同等、対等のもの、徹底的に社会的なものとなることです。他方では、なぜ人間の社会的な労働が商品の交換価値(「価値」として現れるのか、そしてその価値の形態は、なぜ、いかにして、貨幣として、さらには資本としても展開していくのか、その歴史的、現実的な意義や意味は何なのか、ということです。

こうした市場経済(商品経済)の謎と本質に迫り、その理解を深めることは、労働者、勤労者の大きな関心と呼ぶに違いありません。

### 労働時間による分配法則、今明らかに

そして商品の歴史的な分析は、将来の社会主義における労働のあり方、そして分配問題に突き当たらざるを得ません。「社会主義における分配法則」は、労働者にとって未来社会に自分たちの生活や消費はどうなるのかという極めて具体的で実践的な問題にも関わらず、これまでほとんどまともに取り上げられてこなかったし、或いは間違っ

た議論されてきた(今の共産党員＝スターリン主義者の末裔によって)からです。

今から25年前(90年頃)のソ連圏の崩壊に際し、スターリン主義者は社会主義の分配は労働時間によってではなく、市場経済の法則(需給関係による市場の自動的な調整など)によって行う以外にないと主張しました。

しかし、社会主義社会が市場経済(商品経済)を克服止揚した社会であることを考えるなら、とんでもない議論です。マルクスは「商品論」の中でも将来の社会主義社会について、「価値法則」はなくなるが、価値規定の内容(価値の実体は労働であり、その大きさは労働時間によって測られる)は残る、「社会主義における分配」は労働時間の大きさによって規定されるとはっきり述べています。

ブルジョア経済学者はもちろん共産党なども「社会主義の分配法則」を解明することを放棄してしまう中で、チューターらは社会主義における分配法則の定式化の試みを続けてきました。2012年に発行された『プロメテウス』55・56合併号(全国社研社刊)は、その解明に向けての大きな前進でしたが、しかし、まだまだ不十分で曖昧なところが残りました。

いよいよ今回、この問題の合理的な解決に到達し、最終的な決着をやろうということです。果たしてこれは大ボラか、人類史上初めての大発見か、ワクワクするようなテーマであることだけは確実です。

かつてチューターらは、ソ連・中国について「国家資本主義論」という概念を提起し、大きな注目を集めました(1970年頃)。その正しさはソ連圏の崩壊や「市場主義的社会主義」を掲げる最近の中国のブルジョア的動向(帝国主義的な本性をも露呈し始めた)を見れば明らかです。今回の「社会主義の分配法則」についての究明は、それに匹敵する成果ではないかと密かに期待しています。

「社会主義の分配法則」はどんな仕組みで如何になされるのか、興味は尽きません。ともに考え議論し、社会主義のイメージを膨らませ、豊かにしていきましょう。それは労働者の階級的闘いを励まし、大きな武器になるでしょう。

【チューターの「報告要旨」が出ています。ご希望の方は全国社研社まで連絡下さい】

### チューター・林紘義氏の紹介

60年安保闘争をブント同盟員として闘う。以後、社共に反対しつつ、急進主義とも一線を画して労働者の解放を目指し闘う。現在、マルクス主義同志会の代表委員の一人。

『哀惜の樺美智子』『アベノミクスを撃つ』『資本論』を学ぶために／「資本」の基礎としての「商品」など著書多数。